



The
Building
Center
of
Japan

AR設-502-07
平成12年6月1日制定
平成15年6月1日改訂
平成16年4月1日改訂
平成16年12月17日改訂
平成18年4月1日改訂
平成19年5月7日改訂
平成23年4月1日改訂
平成23年11月7日改訂

FRP 評定申込要領



一般財団法人日本建築センター
The Building Center of Japan

評 定 部 設備防災課

目 次

■ 1. 申込から認定までの流れ申込の方法	1
■ 2. 認定に要する費用	3
■ 3. 認定の取り下げ	3
■ 4. 認定の公表	3
■ 5. お問い合わせ	4
■ 6. 認定用提出図書作成について	4
■ 7. 別表（認定用提出図書目次）	6
□ 評定申込書	様式 1
□ 指摘事項回答書	様式 2
□ <u>取り下げ届け</u>	様式 3
□ 評定申込事項	様式 4
□ 各槽の寸法及び容量表（例）	様式 5
□ 使用材料（FRP 部分）及びその許容応力度（その 1）	様式 6
□ 使用材料（FRP 部分）及びその許容応力度（その 2）	様式 7
□ 使用材料及びその構造（FRP 部分以外）	様式 8
□ 建設地条件	様式 9
□ FRP 製工場生産浄化槽の評定申込みに関する留意事項	別紙 1
□ 実大試験報告書作成要領	別紙 2
□ 浄化槽上を車両の駐車場として使用することに関する試験方法	別紙 3

改訂履歴

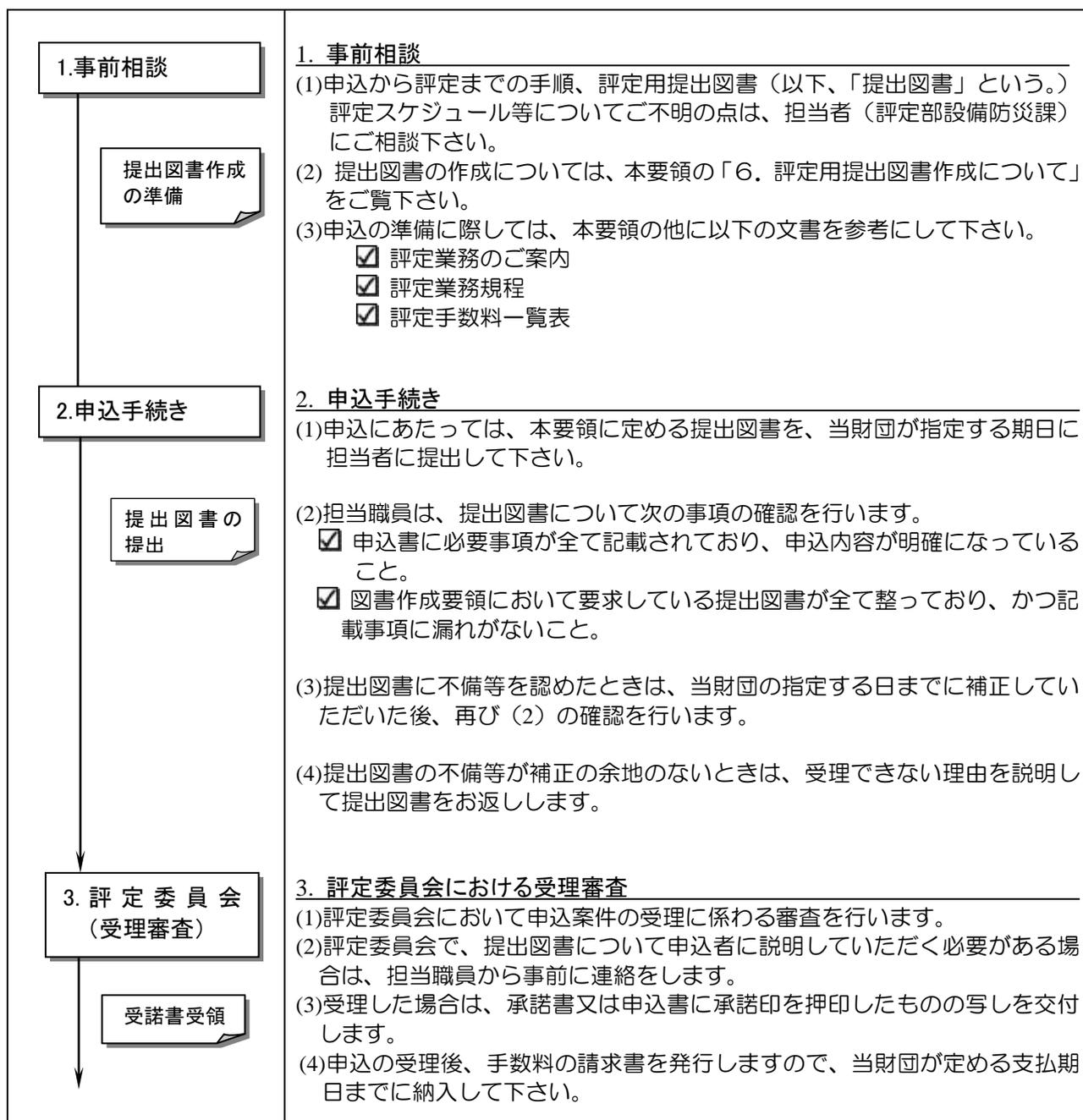
- 2003.6.1
 - ・ 6/1 付け組織変更、設備課→設備防災課による改訂
- 2004.4.1
 - ・ 設備防災課の電話番号変更に伴う修正など
- 2004.12.17
 - ・ 最終版の記述について、内容を見直した。駐車場試験基準を別紙 3 とした。
- 2006.4.1
 - ・ 更新のための説明・資料追加など。
- 2007.5.7
 - ・ 移転に伴う問い合わせ先の住所等変更
- 2011.4.1
 - ・ 一般財団化に伴う社名等変更
- 2011.11.7
 - ・ 本部事務所移転に伴う問い合わせ先の変更

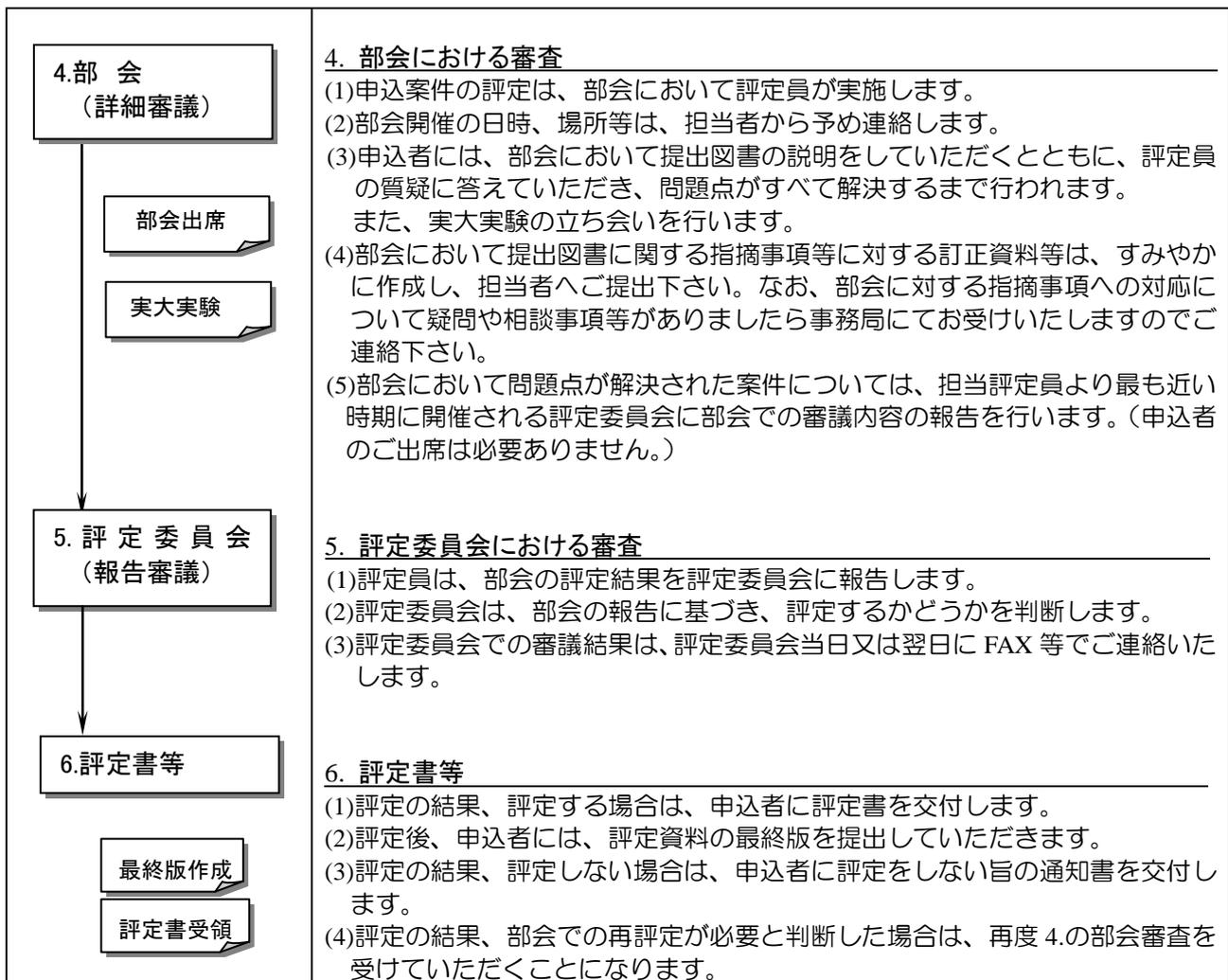
FRP 評価申込要領

■ 1. 申込から評価までの流れ

新規申込みの場合

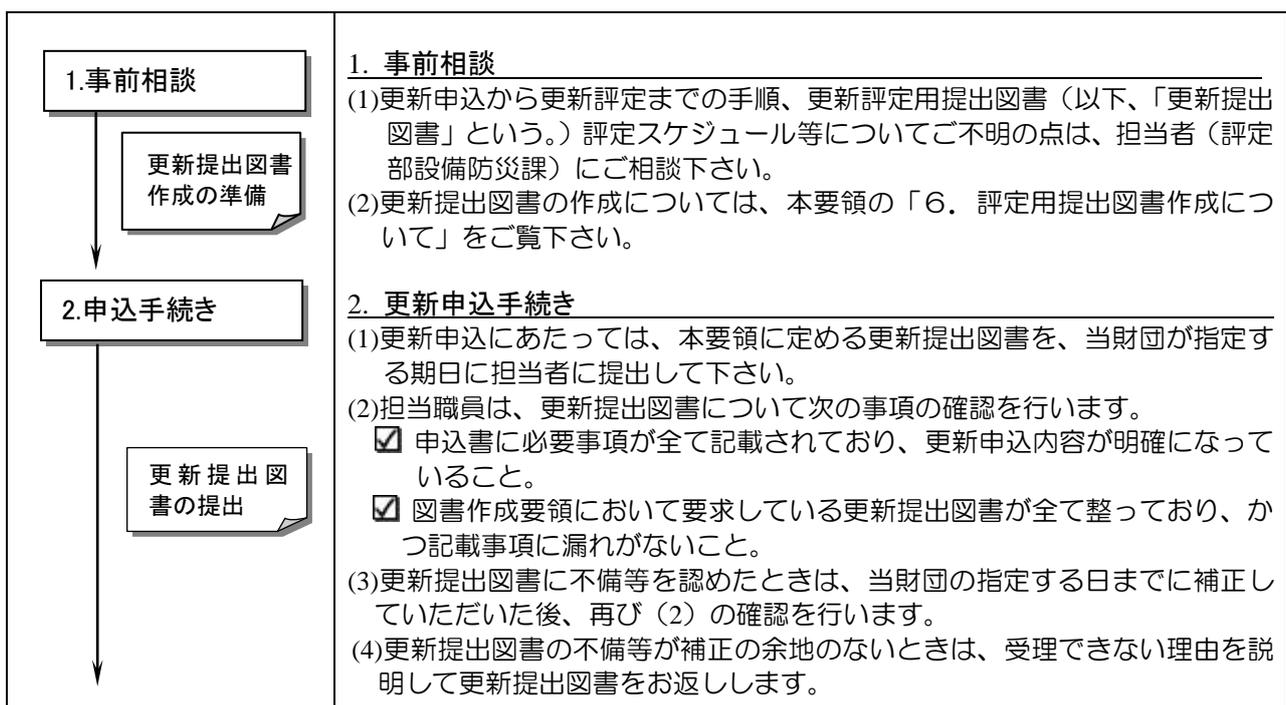
■ 申込から評価までの流れは以下の通りです。

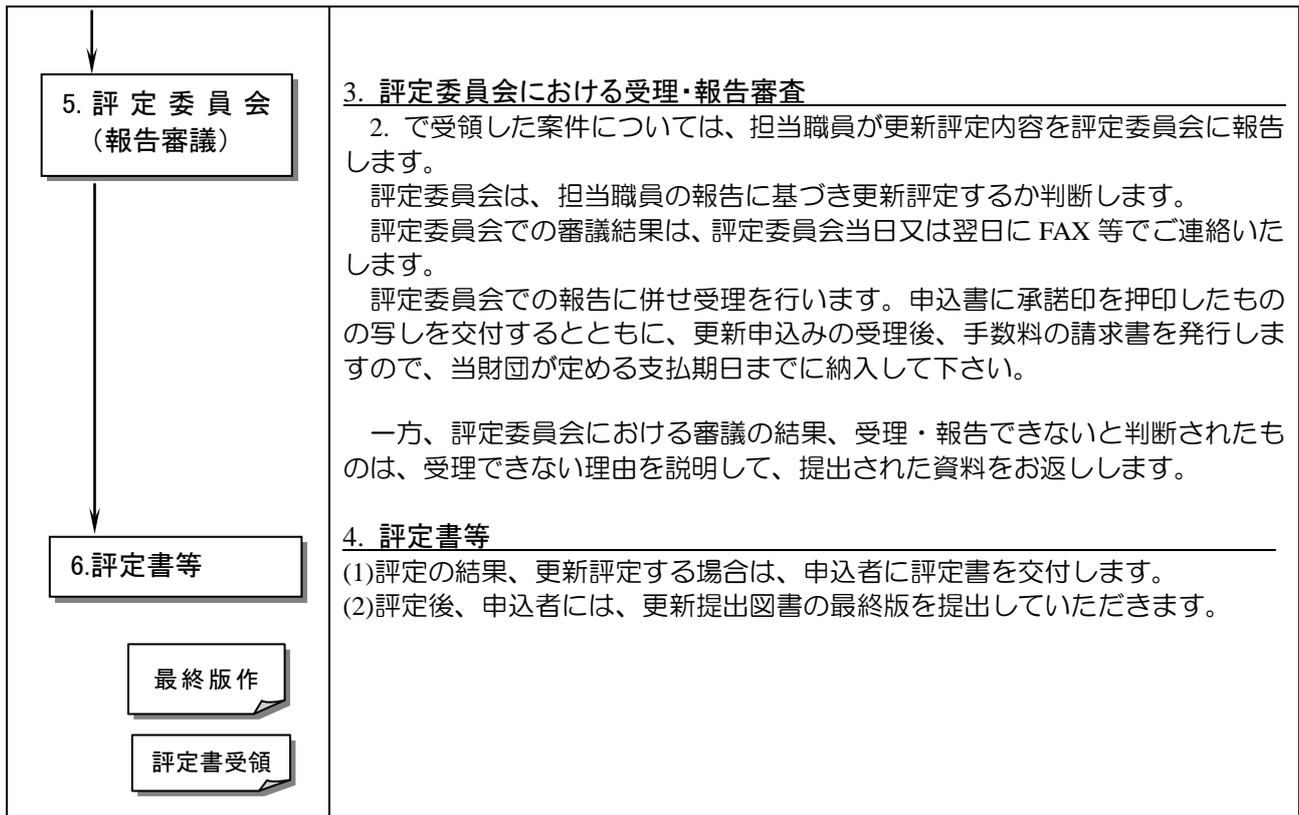




更新申込みの場合

■更新申込みから評定までの流れは下記の通りです。





■ 2. 評定に要する費用

■ 本評定にあたっては、別に定める【手数料一覧表】に掲げる額が必要となります。

■ 3. 評定の取り下げ

ご請求は、申込の受理後、請求書を送付いたしますので、所定の金融機関に早めにお振込み下さい。入金を確認されない場合は、評定書の発行ができませんのでご注意下さい。

■ 申込者側のご都合等により評定書等を交付前に評定等の申込を取り下げる場合には、その旨及び理由を記載した取り下げ届をご提出下さい。

■ 4. 評定の公表

■ 評定されたものについては、評定を受けた者の氏名又は名称及び住所又は主たる事務所の所在地、評定番号、評定年月日、評定を受けた種類及び概要等を申込者のご了解を得たものについて当財団の機関誌等で公表します。

■ 5. お問い合わせ

■本要領、評定委員会開催日等に関する問い合わせについては、

一般財団法人日本建築センター 評定部設備防災課 〒101-8986 東京都千代田区神田錦町 1-9
tel 03-5283-0466 fax 03-5281-2823 <http://www.bcj.or.jp/>

■ 6. 評定用提出図書作成について

6-1. 申込に必要なもの

■以下の提出図書を担当者（評定部設備防災課）にご提出下さい。

提出図書の種類	様式等	期限	部数	
			新規	更新
評定申込書	様式 1	委員会開催の1週間前 (更新の場合は3ヶ月前)	1部	1部
評定用提出図書	別表を参考		1部	1部

□提出図書について、担当者が次の事項の確認を行います。

- 申込書に必要な事項が全て記載されており、申込内容が明確になっていること。
- 提出図書作成内容で要求している提出図書が全て整っており、記載洩れ等がないこと。

■以上の確認後、以下の提出図書をご提出下さい。

提出図書の種類	様式等	期限	部数	
			新規	更新
評定用提出図書	別表を参考	委員会開催の前日	6部	6部

□評定用提出図書作成（部会用、委員会用共通）について

- 提出書類のサイズはA4 縦使いとし、ファイル等で綴じて下さい。ファイルの表紙には、申込する名称、申込者（会社名等）を記載して下さい。なお、A3 版等の図面では、A4 に折り込み下さい。
- 本図書で使用する言語は日本語とし下さい。
- 文字等はなるべくワープロ等を用いて明瞭なものとして下さい。
- 提出図書には通しページ又は項目毎にページを記載下さい。また、必要に応じて、項目毎にインデックス等を用いて下さい。

6-2. 部会開催後に必要なもの(部会訂正資料)

■部会において提出図書に関する指摘事項等に対する訂正資料等（部会訂正資料）は、様式 2 を作成し、当該様式を表紙とし、後ろに、該当する変更・訂正する資料のみを添付して下さい。（ファイル綴じ又はホッチキス止め）

■部数、提出期限等は担当者にご確認下さい。

■部会では、これら部会訂正資料等に基づき、問題点がすべて解決するまで行われます。

6-3. 評定委員会(報告審議)終了後に必要なもの(最終版)

■提出資料内容

最終版とは、部会等で提出した提出図書に関して、必要な差し替え等を行った図書全般のものを言います。（次ページを参照しながら作成・提出して下さい。）

■体 裁

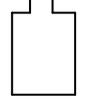
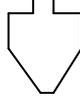
- ☑ 表紙を開いた一番はじめのページは白紙として下さい（白紙に最終版確認印を押印するため）。
- ☑ 白紙の次ページは、受付後にお渡しした「評定申込書（当財団の承諾印を押印したものの写し）」とし、以降、目次に従った評定用提出図書（委員会や部会の審査過程で必要となった資料や図面等の追加・差し替え等を行ったもの）として下さい。
- ☑ 末尾に委員会及び部会の指摘事項回答書（当該回答書に添付した修正資料等は不要）を添付して下さい。
- ☑ 1冊にしてまとめて下さい。どうしても厚くなる場合は、両面コピーを利用して下さい。
- ☑ A4版で、差し換えのきかない製本として下さい。（ねじ留製本は可、容易に差し換えのできる状態の市販ファイルは不可）見開き製本の出来ない大きい図面（青焼きは避ける）等は折り込んで下さい。
- ☑ 表紙、背表紙の文字のレイアウトは、右図に示したとおりです。
- ☑ 文字の大きさ・フォント等は特に規定はありません。

背表紙に記載するもの(レイアウト)	表紙に記載するもの(レイアウト)
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;"> <p style="text-align: center;">評定番号</p> <p style="text-align: center;">申込の名称</p> <p style="text-align: center;">申込者名</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;"> <p style="text-align: center;">FRP 評定委員会 評定番号</p> <p style="text-align: center;">申込の名称</p> <p style="text-align: center;">評定年月</p> <p style="text-align: center;">申込者名</p> </div>

■提 出

- ☑ 上記要領で同じものを2部作成し、事務局に提出してください（郵送で結構です。）。
- ☑ 1部は当財団用とし、残りの1部は財団印を押印のうえ返却いたします。原則として、最終版の提出と引き換えに、評定書を交付いたします。

7. 別表(評定用提出図書目次)

項目	内容及び作成における注意事項	新規	更新
(1)評定申込事項	様式4に示す事項を記入する。	○	○
(2)評定済類似案件との相違点	評定済類似案件がある場合は、その相違点について記述する。	○	○
(3)各槽の寸法及び容量	<p>様式5の「各槽の寸法及び容量表(例)」を参考とし、作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・板厚について 確保できる最低板厚を表示する。 ・槽の名称について 槽の呼び方については下記を基本とする。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>円筒形横置槽 (角)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>円筒形縦置槽 (角)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>縦置槽(沈殿槽)</p> </div> </div>	○	○
(4)槽の形状及び配置概要図一覧	各槽のうち、最大規模及び最小規模のもの概略図を作成し、リブ、仕切板、浮上防止、マンホール部の間隔を表示すること(図面の大きさはA4版とし、なるべく枚数を少なくまとめる。)	○	○
(5)使用材料及び許容応力度	<p>様式6~8に記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製品と同等の材料(構成、板厚等)によって5本以上試験体を作成し、次の項目について試験を行う。 <ol style="list-style-type: none"> 1)引張強さ 2)曲げ強さ 3)引張弾性率 4)曲げ弾性率 5)ポアソン比 6)すべての接合部強度 <p>なお、5)及び6)を除いては、公的試験機関において行ったデータを添付する。</p>	○	○
(6)槽(装置)の構造概要説明書 1)全体的構造概要 2)各部の構造概要 3)力の伝達方法と構造体の力学モデル化	<p>槽本体の構成、リブ、鏡部、立ち上げ部、架台、浮上防止部、基礎、防錆等主要な部分について項目別に文章で概要を説明する。</p> <p>3)については、実験的に証明する場合は、モデル化は省略してもよい。</p>	○	○
(7)建設地条件	<p>様式9に記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設置方法について 地上設置か地下埋設あるいは両方であることを表示する。 	○	○
(8)想定荷重の計算とその一覧表	日本建築センター編集、発行「屎尿浄化槽の構造基準・同解説(1984年版)」に記載されている「プラスチック製屎尿浄化槽の構造設計」を参考に作成する。	○	○
(9)構造計算書	(6)の3)で仮定した力学モデルに対し、(8)で計算した想定荷重の下で安全であることを証明する。 但し、この項は、(10)で示す実大試験により詳細な検討で安全であることが確認されれば省略することができる。(別紙1を参照)	○	

項目	内容及び作成における注意事項	新規	更新
(10)実大試験報告書	<ul style="list-style-type: none"> ・内圧試験 ・外圧試験 <p>外圧試験に関しては(9)項で適正な計算方法で発生応力を予測し、計算で安全性が証明できる場合には、この項は省略することができる。</p> <p>別に定める別紙2：「実大試験報告書作成要領」及び「実大試験についての解説」を参考に作成する。</p> <p>なお、評定申込内容に「地下埋設の小規模合併処理浄化槽の上部を支柱を設けずに駐車場として使用する場合」を含む場合は、別紙3「浄化槽上を車両の駐車場として使用することに関する試験方法」の短期荷重試験結果、クリープ試験結果等を追加する。</p>	○	
(11)材質強度試験報告書	<p>(5)についての試験報告書を添付する。</p> <p>試験報告書には試験体の板厚、形状等の説明書も添付する。</p> <p>なお、評定申込内容に「地下埋設の小規模合併処理浄化槽の上部を支柱を設けずに駐車場として使用する場合」を含む場合は、別紙3「浄化槽上を車両の駐車場として使用することに関する試験方法」の材料試験結果等を追加する。</p> <p>【留意事項】 材料試験結果には、試験片の板厚が記載されている必要があります。</p>	○	
(12)槽の形状及び構造図 1)見取り図 2)平面、率面、断面図 3)主要部分詳細図	<p>1)について 構造、形状が類似な槽は、1つの槽を代表として作成する。写真でもよいが、架台、浮上防止部分が表されているものとする。</p> <p>2)について 構造、形状が類似な槽は、1つの槽を代表として作成し、厚さが変わることにより作成する。</p> <p>3)について 次の図面を縮尺10分の1及び2分の1で作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本体における接合部(10分の1) ・ 補強材(10分の1) ・ 浮上防止(2分の1) ・ 基礎(2分の1) 	○	○
(13)生産管理要領	「工場生産浄化槽評定申込要領※」を参考に作成する。	○	
(14)施工要領	「工場生産浄化槽評定申込要領※」を参考に作成する。	○	
(15)その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ JIS表示許可工場の場合の認定書 ・ 特殊な材料等の説明資料 ・ 類似（関連）製品の生産実績及び会社概要 ・ 当該製品の生産実績（更新の場合） 	○	○

※「工場生産浄化槽評定申込要領」：平成12年5月以前まで配布していたものです。
お手元に無い場合、事務局までお問い合わせ下さい。